

まちづくり市民座談会 報告書

1. 実施の目的

「第3次宍粟市総合計画前期基本計画及び（仮称）宍粟市デジタル田園都市構想総合戦略」策定に向けて、市民の幸福度を高めていくために、何ができるか、必要なことは何かを市民の方と一緒に考えていくワークショップを実施しました。

座談会における意見等については、計画策定のための基礎資料とします。

2. 実施概要

【実施日時・場所】

		日付	時間	場所
各回	第1回	令和7年6月26日（木）	19:00～21:00	はがてらす大ホール
	第2回	令和7年7月3日（木）	19:00～21:00	宍粟防災センター5階
	第3回	令和7年7月19日（土）	10:00～12:00	宍粟防災センター5階
全体会		令和7年8月2日（土）	10:00～12:00	宍粟防災センター5階

【実施テーマ】

実施テーマ	あなたが考える「幸せに暮らせるまち」の実現に向けて
各回検討内容	「幸せに暮らせるまち」ってどんなまち？
全体会検討内容	幸せに暮らせるまちを実現するためにできることを考えよう！

【参加メンバー】

参加者数				
第1回	第2回	第3回	全体会	延べ参加者数
18名	17名	15名	16名	66名

3. 各回・全体会検討内容

座談会 本日のゴール

あなたが考える

「幸せに暮らせるまち」の実現に向けて

本日のゴール

「幸せに暮らせるまち」って
どんなまち？

「幸せに暮らせるまち」を考えるために

市民が「幸せに暮らせるまち」は

趣味を満喫できる☆ 残業なし！！ 良い仲間がいる♡



10年後の宍粟市が
こんなまちになったら幸せだろうな
チームの皆さんと一緒に考えてみてください

5つの視点

「幸せに暮らせるまち」を5つの視点で考える

5つの視点

キャリア 人間関係 経済的
身体的 地域社会

各回の検討内容としては、座談会のテーマである、『あなたが考える「幸せに暮らせるまち」の実現に向けて』に対し、「幸せに暮らせるまち」がどんなまちかについて、5つの視点から考えていただきました。

座談会 本日のゴール

「幸せに暮らせるまち」の実現に向けて

幸せに暮らせるまちを
実現するために
できることを考えよう！

「幸せに暮らせるまち」の実現に向けて

10年後の宍粟市が「幸せに暮らせるまち」となるために、**みんなでできること**
取り組んだら良いことは何だろう？

住民主体でできることを2つの観点で

住民みんなでできること **住民＋市**でできること

2つの観点

住民 自分たちでできる！

住民＋市 市の協力があればできる！



チームの皆さんと一緒に考えてみてください

全体会の検討内容としては、各回にて5つの視点ごとに検討いただいた「幸せに暮らせるまち」を実現するために、できることを2つの観点から考えていただきました。

(※一部検討していない視点あり)

4. 各回・全体会意見概要

【「幸せに暮らせるまち」検討に向けた、5つの視点ごとの意見概要】

…各回では、10年後の宍粟市がこんなまちだったら幸せだ、という理想を描きました。

(1) キャリア視点

住民が多様な仕事や働き方を選択できる環境があるまち。また、仕事だけでなく、ワークライフバランスが大切にされ、自己実現の機会があることが重要。

- 多様な働き方を選択できるまちを目指す
- リモートワークなどを含め、柔軟な働き方を認めること
- やりがいを感じられる職場、自分の得意なことを活かせる場
- やりたいことをする自分が認められる自己肯定感の醸成
- 仕事と休みの相互作用、ワークライフバランス
- 学生が安心して教育を受けられる・興味を持ったことを学べる環境

2. 人間関係の視点

困った時に安心して相談でき、多様性をお互いに尊重し、孤独な人がいないまち。心地よい関係性には、適度な距離感のあるつながりの場も重要。

- 困ったときに助け合える、相談できる相手の存在が不可欠
- 困った声をひろえるまち・誰も一人にならないまち
- 個性を認め合え、ありのままの自分を出せる環境
- 適度に希薄な人間関係、一人になりたいときにそっとできる心地よい距離感
- 多様性を受け入れる関係性

3. 経済的視点

地域資源を有効活用し、地域全体で稼げる機会を創出していくまち。起業支援や企業誘致を積極的に行いつつ、困窮者には適切な支援があるまち。介護職など、需要が多く賃金が低い職の魅力が高まっているまち。

- 安定した収入・貯蓄、経済的に安定していること
- 困窮者に支援の手が差し伸べられる状況を、よかったと思える心のゆとり
- 働く場所の確保・雇用機会を創出、企業誘致、起業支援、地場産業の活性化
- 介護ニーズ増大を見据え、福祉職の賃金上昇
- 空き家の活用、人材活用、特産品の海外展開など、地域資源の有効活用

- 自給自足できる環境や「足るを知る」という精神的な豊かさ

4. 身体的視点

在宅ケアを含めた医療体制が充実し、市民全員のセルフケアが進んでいるまち。いつでも自然豊かな環境下での趣味やスポーツなどでストレス発散できることは魅力であり、仲間との活動を通じた心身の健康づくりが重要。

- 「100歳まで健康でいられる」ことを目指す健康的な生活習慣
- 「自分のことは自分でできる」状態を保つこと
- 医療機関の整備・病気になっても自宅でケアを受けられる体制
- 自然の中でストレス発散・デトックス、デジタルデトックス
- 趣味などリフレッシュできる環境、ストレスが少なく生活できる環境
- 気軽に運動に取り組める機会の提供
- 自分だけでなく家族も健康であること

5. 地域社会の視点

地域活動を通じて交流することで地元愛や誇りが醸成できるまち。地域では誰もが役割をもって活躍できることを認識し、活動に参加しやすい、参加したくなる雰囲気づくりが重要。

- 住民が地域のことをもっと知ること、地元愛・誇り
- 参加も不参加も認められることが、居心地のよい地域活動
- 多様な価値観を認め合うことが円滑な地域活動につながる
- 人と人を思いやる気持ち、互いに助け合い、気遣える社会
- 誰もが地域内での役割があること、得意なことを発揮できる環境
- 多世代が子どもと関わる機会を増やすこと
- 地域の祭りや伝統芸能の継続、祭りや宴といった交流の場
- 適度な距離感を保ちつつも、心の中では誰でもウェルカムな関係性

【各視点における「幸せに暮らせるまち」と「実現に向けてできること」の概要】

…10年後の宍粟市が幸せに暮らせるまちになるため、何ができるかを考えました。

キャリア

- ①安心して働きやすい学校や職場
- ②やりたいと思える就職先が多いまち
- ③仕事と休みの相互作用、ワークライフバランスを大切にするまち
- ④やりたい・やりがいを育めるまち
- ⑤自分の役割があるまち
- ⑥やりたいことができて自分が認められるまち
- ⑦高校でステキな先生に会えるまち
- ⑧みんなが安心して子育て・仕事をする場所が多い
- ⑨自らがやりたいことをできるまち
- ⑩宍粟でもいいと思える環境
- ⑪働き方を選択できる、多様性が認められる（応援してもらえる）まち
- ⑫大企業を誘致できるまち

住民（自分たちでできる）

いつでも・だれでも トライやる宍粟！

いつでも、だれでもトライできる機会提供や魅力的な市内企業について知ってもらう。

●チャレンジショップ

やりたいことを発見するために、仕事の体験を通じて市内企業等を知ってもらう。

●ようこそ！先輩

市内企業を高校生にも知ってもらうために、就職したOB・OGに学校で話してもらう。

●市内企業連携での企業PR大イベント

市内企業を知ってもらうための機会づくりとして、イベントを実施する。

住民＋市（市の協力があればできる）

ふらっとプラットフォーム！

宍粟市に戻ってきた時に、お祭り等の地域企画に参加できること、そして、そういった企画に、自分たちが主体的に参加できることが大事。

●地元に戻った・戻った時に祭りや地域企画に“ふらっと”参加できるたまり場

特に若い人は市から出てしまっているのので、企画に最初から一緒に頑張っていくのは難しい。そこで、お祭り等にふらっと、かつ主体的に参加できる場を作る。プラットフォームの設置や周知を行政支援で、運営を市民で取り組んでいく。

身体的

- ①よく食べて、よく寝て“ヒト”としゃべる
(100歳まで)
- ②老老介護などのリスクを感じさせないまち
- ③予防医療と医療体制の充実(健康づくり)
- ④「ゆったり」が流れるまち
- ⑤食べたい物を食べ、したい運動ができ、心身共に健康になり、
結果ストレスがなく病気にかからないまち
- ⑥自然に刺激を受けるまち
- ⑦なんでも楽しめ笑顔で過ごせるまち
- ⑧自分も家族も健康に暮らせる
- ⑨無理せず好きなことができるまち
- ⑩デトックス
- ⑪ストレスが少なく生活できるまち
- ⑫医療の充実したまち

住民（自分たちでできる）

人のプラットフォーム創出プロジェクト

●趣味・関心を共有できる仲間を作ること
を目的とした、「人が人を呼ぶ」環境を構築
するためのプロジェクト。

散歩や食事、規則正しい生活といった、身
体的幸福度向上に向けた活動は、個人でや
ってしまいがちな活動。そして、一人では
続けることが億劫・困難な活動でもある。
そういった活動の輪を広げ、仲間と一緒に
楽しむことで、活動がより楽しく、好きに
なり、継続して頑張れる。

住民＋市（市の協力があればできる）

場のプラットフォーム創出プロジェクト

●「人のプラットフォーム」を繋げる掲示
板
市民は、趣味活動の団体やイベントを知ら
ないことも多い。市が団体の広報に協力す
るなど、関心づくりを助けることで、「人の
プラットフォーム」に自ら参加して、健康
的に身体を動かしたり、精神的に楽しく暮
らせたりと、活動の加速化が期待できる。
身体的視点＝心身の健康を目指すことで、
そのためには仲間や人とのつながりが重
要。コミュニティがあっても、互いに繋が
っていないので、行政にはそこを支援して
ほしい。

地域社会

- ①地域活動を続けていける地元愛♡
- ②誰もが社会に役立っていると思えるまち
- ③多様な参加も不参加も認められる居ごちの良い地域活動
- ④「異」と「異」が手を取りあい、未来をつくるまち
- ⑤適度な距離感があり、関わりたくなる地域・社会のあるまち
- ⑥誰一人取り残さないまち
- ⑦安心して子育て・生活ができるまち（最期まで）
- ⑧人と人との思いやる気持ちのあるまち
- ⑨お互い認め合えるまち
- ⑩適度なコミュニケーション
- ⑪オープンかつクローズなまち
- ⑫地域で子育てできるまち

住民（自分たちでできる）

お祭りプロジェクト

市の特色として、各地域で開催されるお祭りがある。企画運営者・参加者のモチベーションアップを図るとともに、「宍粟市に残したい風景」としての魅力を高め、郷土愛の醸成にも繋がる。

●お祭りカレンダー

→各地域のお祭り情報を整理・共有することで、参加者の増加が期待できる

●祭りにやりがいをもたせることで、地域活性化と担い手の増加（地域での役割創出）の好循環をめざす。

住民＋市（市の協力があればできる）

ライドシェアプロジェクト

●スクールバスのオープン化

スクールバスは小中学校どちらもガラガラなので、市の大きな課題である公共交通と一体的に考えていく。スクールバスに誰でも乗れるオープン化を検討したり、白タクの部分的合法化・ライドシェアの導入等に向けて実証実験などを協力して行ったり、行政・学校・保護者・地域が協力して取り組む。

ライドシェアの取組の中では、主婦層や定年退職後の方の参画も期待したいが、収入はあくまでボランティア程度であり、「仕事」よりも「地域貢献」や「共助」の啓発が大切となってくる。

下記の2つの視点については、全体会チーム数の関係より、各回における「幸せに暮らせるまち」の意見概要のみ記載。

人間関係

- ①お互いを尊重し合えるつながり合える環境
- ②孤独を感じさせない支え合えるまち
- ③家族が一番、そして世代を越えてあいさつができるまち
- ④ありのままをありのままに出せるまち
- ⑤何でも話せて相談できて一緒に笑い合っただ大な信頼をおける人たちとつながれるコミュニティがあるまち→健やかな人間関係
- ⑥お互いを認め合っつつながりを大切にするまち
- ⑦子どもは宝
- ⑧信頼関係がある
- ⑨互いに尊敬信頼できるまち
- ⑩希薄な人間関係
- ⑪お互いが大切にし合えるまち
- ⑫困った声をひろえるまち

経済的

- ①多様な働き方を選択できるまち
- ②福祉職の賃金が高いまち
- ③在る事に感謝し、物心両面の豊かさをめざすまち
- ④ステキと思える仕事があふれるまち
- ⑤働き口・収入があり生活ができ子どもを育てたいまち
- ⑥空白を有効に使えるまち
- ⑦人材を有効に使えるまち
- ⑧すべての世代が経済的に安定している
- ⑨お金があり余裕があるまち
- ⑩ムダのない生活ができる環境
- ⑪みんなが「稼げる」まち
- ⑫生活に困らない収入